

東北中学校卓球大会競技規則

1 まえがき ～東北中学校卓球大会競技規則とは～

東北中学校卓球大会では、日本卓球ルールを採用して競技を行います。しかし、この大会では、日本卓球ルールに規定されていない内容で競技を行ったり、場合によっては日本卓球ルールを一部緩和して適用する場面等が出てまいります。そのため、以下の3つのこと(①～③)を明文化し、競技が公正に行われることを目的としてこの東北中学校卓球大会競技規則を作成しました。

- ① 「日本卓球ルールに規定されていないこと」
- ② 「日本卓球ルールを変更して運用すること」
- ③ 「日本卓球ルールを中体連用に解釈して運用すること」

2 競技運営について

東北中学校卓球大会は以下の4つに基づいて競技を行います。

		入手方法
1	日本卓球ルール	日本卓球協会 Web サイトからルールブックを購入 http://www.jtta.or.jp/
2	東北中学校卓球大会競技規則	本文書 宮城県中体連卓球専門部 Web サイト http://www.k3.dion.ne.jp/~ttbukai/ ※常時掲載
3	東北中学校体育連盟卓球専門部 各県委員長会確認事項	各県中体連卓球専門部委員長が所有
4	プログラム掲載の「競技上の注意」	大会プログラムに掲載

3 目次

	項目	ページ
1	団体戦について（概略） ・形式 ・3点先取 ・オーダーの提出 ・オーダーミス	3
2	団体戦における服装	4
3	タイムアウトについて	5
4	個人戦アドバイザーのベンチ移動について	6
5	団体戦男女兼任監督・アドバイザーのベンチ移動及び監督権限等について	7
6	団体戦の選手人数不足での参加について	8,9
7	団体戦の応援等について	10
8	幕, 旗の掲示について	11
9	ゲームの時間計測について（促進ルール）	12
10	外部コーチ・校外コーチの登録について	13
11	団体戦におけるアドバイザーのタイムアウト権限について	14
12		
13		
14		
15		

4-1 団体戦の試合方法について（概略）

- (1) 1ダブルス4シングルの5試合方式（6人制）で行う。
- (2) 選手は、団体戦1試合の中で、シングルスとダブルスに重複して出場することはできない。
- (3) 試合順序は以下の通りとする。
1番：シングルス 2番：シングルス 3番：ダブルス 4番：シングルス 5番：シングルス
- (4) 3点先取法で行う
 - ① どちらかのチームが3勝し、試合結果（3-2，3-1，3-0のスコア）が確定した段階で試合を打ち切る。
 - ② 例えば、一方のチームが1，2，4番で勝利し、そのチームが3勝しても、3番が試合途中の場合は、試合結果（3-2，3-1，3-0のスコア）が確定しないため、この場合は3番の試合を最後まで行う。
- (5) オーダーの提出について
 - ① 大会ごとに定められたタイミングでオーダーを提出すること。
 - ② 一度提出されたオーダーは原則として変更できない。
※ オーダーの作成・提出前に対戦相手を確認するのは監督の責任とする。
- (6) オーダーミス取り扱いについて
 - ① オーダーの確認は監督の責任とする。大会運営側では、提出されたオーダーが正規の要件に合致するかの確認は行わない。
※ 本来的には大会運営側でオーダーのチェックを行うのが望ましいが、上位大会(全中)でもオーダーチェックが行われていないこと等を鑑み、東北大会でも行わないこととする。
 - ② オーダーミスが発覚した場合は、基本的には、「日本卓球ルールブック 2011p32〔付録3〕○オーダーミスの取り扱いについて」に基づいて、審判長が取り扱いを決定する。
 - ③ 基本的に審判長は以下の3つの基準でオーダーミスを取り扱う。
 - ・ 提出されたオーダーを最大限有効として試合を成立させる。
 - ・ 相手校の不利益にならないようにする。
 - ・ オーダーミスしたチームに対しても、棄権の試合が最小限(できれば0)になるようにする。

4-2 団体戦の服装について

(1) ルール条文 日本卓球ルール

① 2.2.2.8 抜粋, 途中略

団体戦に出場するチームの全競技者は、靴及び靴下を除いて、同じ服装で競技しなければならない。

② 2.2.2.9 抜粋, 途中略

対戦する競技者の、競技用シャツ、ショーツまたはスカートは、互いに区別できる程度に異なった特徴を持つものでなければならない。

※ つまり、団体戦では登録メンバー全員が、揃いのユニホームを2セット以上準備しなければならない。

(2) 考え方

ルールを遵守する。

(3) 団体戦服装の取り扱い

① 団体戦で競技する選手（6名）について

- ・ シャツは同じものを着用すること。
- ・ ショーツ・スカートは同色のものを着用すること。
- ・ 同色であれば、ある選手はショーツ、別の選手はスカートでも容認する。

② ベンチ入り選手について

- ・ 競技する選手と違うユニホーム姿でのベンチ入りは認めない。ただし、ユニホームの上にジャージを着る等、見た目には違うユニホームであることが分からない場合は、ベンチ入りを容認せざるを得ない（望ましくはない）。

③ 対戦する学校同士が同じユニホームだった場合

- ・ 一方のチームが着替えをする。

(4) 注意事項

① 真にやむを得ない事情で、上記（3）の要件を満たせない場合には、開会式前、できるだけ早い時間帯に審判長まで申し出ることとする。

② （3）の要件を満たせないとき、場合によっては棄権とせざるを得ないこともあるため、十分に気をつけて大会に参加すること。

4-3 タイムアウトについて

(1) タイムアウトの適用について・・・団体戦，個人戦ともにタイムアウト制を適用する。

(2) タイムアウトの要求の仕方・・・日本卓球ルール条文から

2.4.4.2.3 ”タイムアウト”の要求は，ゲーム中のラリーとラリーの間にのみでき，その際手で「T」を示すものとする。

2.4.4.2.4 タイムアウトの要求を主審が確認したら，主審は競技を中断し，タイムアウトを要求した競技者または組の方にホワイトカードを掲げる。

(3) ルールの適用について

1) 団体戦の監督や，個人戦のアドバイザーがタイムアウトを要求するとき，「手で「T」を示す」だけでは，主審がその要求に気付かないことが多い。この場合，以下のような行動を認める。

- ① 手で「T」を示す
- ② 「タイムアウト！」と大きな声で主審に伝える。
- ③ 競技領域に入り，主審に「タイムアウト」と伝える。

2) 監督がタイムアウトを要求した場合など，主審がその要求に気付いていないのに，選手が競技を中断してベンチに戻ることがある。これは，相手競技者に悪影響を与えかねない行為として，無くしていきたい。このようなことを避けるため，以下の点に注意をして頂きたい。

- ・ タイムアウトを要求した側は，主審がその要求を認めたと確認してからベンチに戻る。
(主審がホワイトカードを掲げた，主審がうなずいた，主審がタイムアウトと言った，など)

(4) 備考

(3) について，全国中学校卓球大会でも上記と同様の規定を適用している。

4-4 個人戦アドバイザーのベンチ移動について

(1) ルール条文 日本卓球ルール 2.5.1.2 抜粋

個人戦において、競技者または組はそのマッチ開始前に主審に登録された一人のアドバイザーからのみアドバイスを受けることができる。

(2) 考え方

選手にとって、これまで指導に当たってきた指導者(アドバイザー)がベンチにいる状態で試合をするのがベストであると考え。そのため、一人の指導者(アドバイザー)にとって複数の選手の試合が同時に行われている場合には、指導者(アドバイザー)のベンチの移動認めるべきであると考え。ルール上は「そのマッチ開始前に主審に登録された一人のアドバイザー」とのみ規定されており、これは、指導者(アドバイザー)が試合開始後にベンチに入ることや、試合途中にベンチを離れ、再び戻ることを妨げるものではないと解釈する。

(3) 該当種目 . . . 男女個人戦

(4) 具体的内容

① 【A選手の試合が既に始まっていたとき】

→ A選手のベンチに誰も入っていなかった時のみ、アドバイザーが試合途中でベンチに入ることを認める。

(試合途中でのアドバイザーの交替は認めない。)

② 【A, B2選手が試合をしているとき】

→ B選手のベンチに誰も入っていなかった時のみ、A選手のアドバイザーが、B選手のベンチに移動することを認める。

(この後、他のアドバイザーがA選手のベンチに入ることはできない。)

→ また、この後、同一のアドバイザーならばA選手のベンチに戻ることを認める。

(試合途中でのアドバイザーの交替は認めない。)

(5) 注意事項

- ・ アドバイザーは、移動の際、競技の妨げとならないよう十分に気をつけること。

(6) 備考

全国中学校卓球大会でも上記と同様の規定を適用している。

4-5 団体戦男女兼任監督・アドバイザーのベンチ移動及び監督権限等について

(1) 考え方

選手にとって、これまで指導に当たってきた監督がベンチにいる状態で試合をするのがベストであると考えます。そのため、男女兼任監督で男女の試合が重なった際には、監督のベンチの移動認めるべきであると考えます。これに伴い、監督不在の際の監督権限の所在を以下のように定める。

(2) 該当種目

男女団体

(3) 具体的内容

① 監督・アドバイザーのベンチへの出入りを認める。

(男女で行ったり来たりして構いません)

② 監督不在の場合は主将に監督権限(抗議権, タイムアウト権)を与える。

(アドバイザーには与えられません)

※ これとは別に、「複数台進行の際のアドバイザーのタイムアウト権限」については、4-11に定める。

③ 抗議に関する問題が発生した場合、監督がベンチに不在で、主将では問題解決に支障をきたす場合は、監督をベンチに呼んでくることを認める。ただし、これは相手競技者に不利益を与えないようにすみやかに行われる場合に限り認められる。

(4) 備考

全国中学校卓球大会も上記と同様の規定を適用している。

4-6 団体戦の選手人数不足での参加について

(1) はじめに

「真にやむを得ない場合」または「緊急事情」において、東北中学校卓球大会団体戦（4S1W・6人制）の選手人数不足での参加（出場）を、以下の通り認めることがある。この処置はあくまで「真にやむを得ない場合」または「緊急事情」において適用されるものであり、通例とはしない。選手の人数不足同士の中学校（チーム）が対戦する場合、勝敗決定方法の一部に矛盾があるので特段の配慮を要する。なるべく、選手の人数不足同士の中学校（チーム）が対戦することは組合せ上避けたほうがよい。

(2) 「真にやむを得ない場合」と「緊急事情」

① 「真にやむを得ない場合」

→ 男女別の全校生徒数が5名以下しかいないこと。

② 「緊急事情」

→ 大会当日大会開催地で急病または不慮の事故・事件が発生したため大会に参加（出場）することができないこと。また、それに準ずる事情のこと。

(3) 選手人数不足の範囲

選手人数不足は2名以内とする。大会には5名または4名で参加する。

(4) 出場の可否判断

① 「真にやむを得ない場合」について

申込段階で大会事務局が当該校に確認する。その旨を大会事務局が東北中体連卓球専門部部会長に報告し、部会長が参加（出場）を認める。

② 「緊急事情」

緊急事情発生の報告を当該校から受けた後すみやかに、「部会長・6県委員長・審判長」で協議し、部会長が参加の可否を決定する。

(次頁に続く)

(5) 選手人数不足の場合の勝敗決定について

選手人数不足であっても、参加を正式に認められた際には、正式に勝敗を決定する。
然るべき成績を収めた際には、上位大会への参加も認める。

1) 対戦相手が人数不足でない場合

- ① 1名不足で5名で出場の場合 1番棄権で試合を開始する
- ② 2名不足で4名で出場の場合 1番2番棄権で試合を開始する

2) 対戦相手も人数不足である場合

- ① 1名不足で5名で出場 対 1名不足で5名で出場 の場合
→ 1対1で試合を開始する 3番4番5番で勝敗を決定する
- ② 1名不足で5名で出場 対 2名不足で4名で出場 の場合
→ 2対0で試合を開始する 3番4番5番で勝敗を決定する
※ 2名不足で4名の場合は、3番4番5番のいずれも勝たねばならない
※ 1名不足で5名の場合は、3番4番5番のいずれか2名が負けてもよい
- ③ 2名不足で4名で出場 対 2名不足で4名で出場 の場合
→ 1対1で試合を開始する 3番4番5番で勝敗を決定する
※ 2名が先取したチームが勝ちとなる

(6) オーダーの作成について

人数不足校を含む対戦の場合、審判長（もしくは当該県委員長）は、オーダー交換前に両校の監督（もしくはその代理のもの）に勝敗の決定法を説明し、その上でオーダーを作成・提出させる。

(7) 備考

全国中学校卓球大会でも上記と同様の規定を適用している。

4-7 団体戦の応援について

(1) ルールについて

応援については、バッドマナーの対象をのぞき、日本卓球ルールに規定されていない。

(2) 該当種目

男女団体戦

(3) 具体的内容

① ベンチでの応援について。

- ・ 立ちっぱなしの応援は認めない。
- ・ 1ポイント毎に立ち上がって声援・応援をし、次のラリー開始前に座るのであれば容認する。

② 団体戦のゲーム間のアドバイス時、競技領域内に入って選手を扇ぐ行為は、他のテーブルで行われている試合の妨げとならないよう最大限注意を払って行われる分には、容認する。

(4) 備考

全国中学校卓球大会でも上記と同様の規定を適用している。

4-8 幕, 旗の掲示について

(1) 日本卓球ルール条文

2.2.6.1.1 幕はタテ1 m×ヨコ4 mを最大寸法とする横幕とし、文字の高さ15 cm以上25 cm以内のクラブ名(卓球部名)を入れるものとする。

2.2.6.1.2 旗はタテ1.5 m×ヨコ2 m以内とし、校章・社章またはシンボルマークを中央に入れ、タテかヨコ表示のクラブ名(卓球部名)を入れるものとする。

2.2.6.1.3 縦幕は原則として許可されない。また、前項の旗を縦に長くして掲示することはできない。

(2) 考え方

ルールを遵守したい。そのため、(1)の通りに幕・旗を掲示する事を大前提とする。しかし、既に代々使用してきたものや、せっかく保護者会等で作成して頂いたものが、(1)のルールに合わない場合もあるため、(3)のように扱う。尚、これは東北中学校卓球大会の取り決めであり、他大会ではルールに適さない旗、幕を折り曲げて掲示するよう指示された前例もあるため、そのような大会に出場する際にはくれぐれも注意をすること。

(3) 旗, 幕の取り扱い

1) 新規作成時

① 新規に旗、幕を作成する際には、ルールに適合したのを作る。

2) これまで使用していた旗、幕のサイズがルールに適合しない場合。

① 若干大きい程度であれば、審判長の判断無く容認する。(各校で判断してください。)

② 「明らかに大きい」、「縦幕」等の場合は、掲示する前に審判長に申し出ること。

③ 掲示スペースが狭い場合は、折り曲げて掲示していただくこともある。

3) これまで使用していた旗、幕のデザインがルールに適合しない場合。

① 見た人から何中学校のものか分かるものであり、かつ、中学生の大会に掲示するものとして適当である場合は、審判長の判断無く掲示を容認する。(各校で判断してください。)

② 審判長の判断が必要と思われるデザインの場合は、参加校の責任で持ち込まないでください。

4) のぼり旗

※ 最近、東北大会や全国大会で「のぼり旗」を見かけるようになった。地域の方々が持たせてくれた物ということで掲示を容認していたが、観客の視界をさえぎるものであるため、掲示する場所は制限されている。

① のぼり旗の掲示は望ましくない。

② やむを得ずのぼり旗を掲示する場合は、観客席最後列の後ろに限り、掲示を容認する。尚、通行の妨げになったり、観客の視界をさえぎっていると審判長が判断した場合は、撤去を依頼する。

4-9 ゲームの時間計測について（促進ルール）

(1) ルール・・・「日本卓球ルール 1. 15 促進ルール」をお読みください。

(2) ゲームの時間計測の仕方について

正式には、競技領域外にボールを取りに行った際等も時計を止めて時間を計測する必要がある。そのため、大会によって「時計を止めながら10分経過したら促進」「時計を止めずに11分経過したら促進」など、その大会に合わせた時間計測が行われている。東北中学校卓球大会では以下のようにする。

- ① 主審の「ラブオール」の宣告で時計をスタート。
- ② 軽度のロスタイム(ボールを拾う等)で時計は止めない。
- ③ 「抗議」「タイムアウト」「予期せぬ長い中断」では時計を止める。
- ③ 10分経過で促進ルール適用。(合計18ポイント以上では適用しない)

(3) 促進ルールの適用

① 10分経過した段階でボールがインプレーだった場合

本来であれば主審がラリーを中断し適用するが、場合によっては、そのコートにかけつけた審判系役員がラリーを中断し、促進ルールを適用する旨選手に伝える。

② ストロークカウンター

任命された者がストロークカウンターとしてコートに入る。この者はあくまでストロークカウンターであり、打球の数を数えるだけの者である。ポイントの判定等は主審・副審で行う。

③ 促進ルールに持ち込むという戦術も存在するため、例えばゲーム終盤の重要な場面であっても、ラリーを止めて促進ルールを適用する。そのつもりで競技をすること。

4-10 外部コーチ・校外コーチの登録について

(1) 監督やアドバイザーの種別，登録の必要性等

① 団体戦

役職	資格	人数	登録
監督	当該校の校長・教員	必ず1名	申込用紙にて登録が必要
アドバイザー	校長が認めた者 (教職員，生徒，校外・外部コーチ)	0名か1名	申込用紙にて登録が必要

② 個人戦

役職	資格	人数	登録
アドバイザー	当該校の教職員・生徒	制限無し	不要
	校長が認めた者 (校外・外部コーチ)	0～個人戦出場者数	申込用紙にて登録が必要

※ 例えば，ある中学校から個人戦に3名参加する場合には，校外・外部コーチを3名まで登録することができる。この他に，その学校の教職員・生徒もアドバイザーとしてベンチに入ることができる。

(2) 1人の外部指導者が，外部・校外コーチとして複数の学校に登録されても良いか？

⇒ 団体戦・個人戦ともに認める。

(3) 外部・校外コーチの資格について

⇒ 校長が認めた**成人**とする。ただし，中学校教職員・校長が他校の外部・校外コーチとしてベンチに入ることには認めない。

※ 外部コーチ…学校長が学校部活動の指導者として承認した者で，日常的に学校部活動の指導に当たっている者。(中学校教職員・校長は含まない)

※ 校外コーチ…クラブ・道場などの指導に当たっている者。

4-11 団体戦におけるアドバイザーのタイムアウト権限について

(1) 日本卓球ルール条文 (タイムアウトについて)

2.4.4.2.1 (前半部分略) 団体戦においては、競技者、組または監督が要求できる。

2.4.4.2.2 タイムアウトの要求に関して、競技者または組と(中略)監督の意見が異なるときは(中略)、団体戦の場合は監督の要求が優先される。

(2) 考え方

タイムアウトの要求は適時性がたいへん肝要であり、複数台を使用している試合では監督1人では対応できないと判断する。

(3) 団体戦におけるアドバイザーのタイムアウト権限

複数台を使用する試合では団体戦のアドバイザーもタイムアウトを要求することができる。

※ この場合、タイムアウトの要求に関して、競技者または組とアドバイザーの意見が異なるときは、アドバイザーの要求が優先される。

(4) 備考

① 抗議権は団体戦のアドバイザーにはなく、監督のみにある。(従来通り)

② 全国中学校卓球大会でも上記と同様の規定を適用している。

5 付則

- (1) 「日本卓球ルール」「東北中学校卓球大会競技規則」「東北中学校体育連盟卓球専門部各県委員長会確認事項」「競技上の注意」に規定されていない内容については、審判長がその場で判断することとなります。つまり、「書かれていないから禁止されていない」ということには、必ずしもなりませんので御注意ください。
- (2) この「東北中学校卓球大会競技規則」を逆手にとり、例えば「ユニホームは6つだけ揃えていれば良い」「結局のぼり旗は掲示が許される」等、自分勝手に解釈する学校が出てきた際には、この競技規則を厳しいものに変更していかなければなりません。そうならないように、常識ある解釈をお願いします。
- (3) この「東北中学校卓球大会競技規則」は東北中体連卓球専門部総会及び東北6県委員長会議において変更できることとします。変更を希望なさる方は、自県の専門委員長の先生を通して、提案することとします。
- (4) 「東北中学校卓球大会競技規則」の制定及び改定の経過は以下の通り。

	年月	改定等	参照するルールブック
1	平成 25 年 5 月	制定	日本卓球ルールブック 2011
2	平成 26 年 8 月	文言微修正	日本卓球ルールブック 2011
3			
4			
5			
6			